

胃腫瘍性病変に対する内視鏡的治療手技について

星野誠一郎 榎 研二 山内 靖
三上 公治 篠原 徹雄 乗富 智明
山本 聡 前川 隆文 山下 裕一
白日 高歩

福岡大学医学部第2外科

要旨：胃腫瘍に対する内視鏡治療は20年前から導入されて、最近になりその症例数、適応は増加の一途をたどっている。その理由としてはデバイスの改良、技術的な進歩によるところが大きい。また適応拡大に関しては十分にエビデンスを構築し根治度の得られる手術を行う必要がある。EMR, EMRC, ESDと手技は発展し、器具も今後益々改良されると思われる。術者はそれらを十分に理解しながら治療にあたる必要がある。

Key words：内視鏡的粘膜切除術，内視鏡的切開剥離術，早期癌，適応拡大